

Tidal Enterprise Orchestrator : オートメーションの要約の作成および使用

内容

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[自動化サマリについて](#)

[自動化サマリの使用](#)

[自動化サマリの作成方法](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco Process Orchestrator(CPO)での自動化サマリの作成と使用について説明します。

前提条件

要件

CPOでの一般的なプロセスオーサリングに関する知識があることが推奨されます。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco Process Orchestratorバージョン3.0以降に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

自動化サマリについて

自動化の概要は、CPOが作成し、実行したプロセスのアクティビティの出力に関する情報を保持するXMLベースのドキュメントです。これらの自動化サマリは、UNCの共有、または仮想ディレクトリを通じて共有できます。デフォルトで、システムに30日間保持されてから削除されますが、この期限を長く、または短く設定できます。

自動化サマリの使用

自動化サマリは、特にプロセスインスタンスとアクティビティインスタンスがアーカイブされていないときに、多数の対象者にプロセスの出力を送信する場合、またはプロセスの出力を保存する場合に使用してください。また、ITIL インシデントやアラートに添付される重要なレポートに

することもできます。

自動化サマリの作成方法

次のステップを実行します。

1. [Create Automation Summary]、[Create Incident]、または[Create Alert]アクティビティをプロセスにドラッグアンドドロップします。
2. 自動化サマリの作成を使用する場合は、ステップ4に進みます。他の方法を使用した場合は、ステップ3に進みます。
3. [Create Incident] または [Create Alert] をドロップしたら、自動化サマリのタブに移動し、1つ選択して作成します。
4. [Automation Summary configuration] タブで、レポートを作成するボックスのアクティビティを選択して、それぞれに必要な分析スタイルを新しく指定します。また、1つのアクティビティのみを根本原因として選択することもできます。
5. 根本原因とするアクティビティを選択すると、自動化サマリの一番上にコピーされます。
6. プロセスを実行すると、自動化サマリが作成され、設定した共有設定に保存されます。通常、プロセスの一環としてこのリンクを電子メールで送信するなど、エンドユーザーにその存在を知らせることをお勧めします。